

第 4 次丹波市男女共同参画計画策定 のための地域団体ヒアリング 調査報告書

令和 4 年 2 月

丹 波 市

目 次

I	実施目的.....	1
II	調査対象.....	1
III	調査方法.....	1
IV	調査日程.....	1
V	調査結果（個別詳細）	2

I 実施目的

本調査は、地域で男女共同参画推進に取り組んでいる市民団体の方から男女共同参画に関する課題や、丹波市に期待することなどの意見を直接把握し、丹波市男女共同参画計画策定の基礎調査とすることを目的として、ヒアリング調査を実施しました。

II 調査対象

- 柏原男女共同参画推進会
- 吉見地区男女共同参画推進連絡会

計2団体

III 調査方法

直接、対面ヒアリングを実施しました。

IV 調査日程

令和4年1月25日（火）、1月28日（金）

V 調査結果（個別詳細）

[柏原男女共同参画推進会]

1 団体について

①設立の経緯、活動状況、役員登用、活動を進める上での課題、今後の取組について

- ・自治協議会の役員をしていた者が中心になり立ち上げた。以前は、人権と男女共同参画が同じ役員だったが、それを分けて取り組むようになった。
- ・組織をつくる際の難しさは、会長をお願いしたことぐらいである。副会長は農協の方をお願いした。初めは、男女3人ずつで6人の組織をつくった。各自治会に推進委員がいたが、他の自治会で何をしているのかわからないので、互いに情報交換をすることを目標で始めた。
- ・メンバーの比率は男女半々である。自治会で1名のところもあれば、2名のところもある。総勢26名である。17自治会で20名、私ども役員が6名という内訳である。
- ・最初はリーダー格の方が中心になり、問題意識のある方が集まり、立ち上げに至った。普段から小学校区単位で自治協議会の組織があり、顔見知りだったこともある。
活動資金の予算については自治協議会から出されているので、自治協議会の支援があってこそ活動ができていると考えている。会長には、自治協議会の理事になっていただいている。自治協議会には各自治会の会長と民生委員、婦人会、観光協会等の各種団体の長が役員として入っているが、そこに男女共同参画推進会の会長も役員として入っているということである。
- ・毎年実施している取組としては、啓発事業としての広報の発行、「でかけるウィズ・ユー」がある。「ウィズ・ユー」は愛称であり、活動は出前講座のようなものである。こちらから教えるのではなく、互いに勉強し合うという趣旨である。待っていても意見をもらえることも少ないので、こちらから出向き、率直な意見を聞いている。各自治会の組長等を対象に、昨年から行っている。
- ・啓発事業として「用語集」をつくり、その中からピックアップして説明をしている。学んだ後に意見交換もしている。
- ・総会は、従来対面で行い、その後に講演会を企画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、総会自体も書面議決で、講演会も実施できていない。

2 地域づくりについて

①地域づくり活動における課題や組織運営への参画促進について

- ・丹波市には地元出身の方も多いが、Uターン、Iターンの方も多いので、いろいろな意見が聞けると思っている。新しい入居者が多い地域では、次の役員を選ぶ際に顔もわからないので、知っている人に頼みがちである。
- ・丹波市男女共同参画センターの認知度が低く、市民意識調査から、男女共同参画週間等の用語に関しても知られていないということがわかる。見える化できるとよいと思う。
- ・自治会長会では、過去にのぼり旗を公民館の前に取組をした。
- ・看板は出したほうがよいと思う。できれば、そのような活動を行った自治会に対して、自治協議会からいくらか資金を出していただけないかという意見があり、提案してみたが取り上げられなかった。

- ・ 役員の交代が課題である。自分の役が終わればお終いではなく、次の役になった人に伝えていくことが必要だと思う。
- ・ 自治会長や男女共同参画推進員の、勉強会の必要があると思う。
- ・ 分からないことがあれば市民プラザに出向くと相談する場所があり、気軽に活用できるということを、広く伝えるとよいと思う。
- ・ 男女共同参画推進員自身が、学びたいと思っているかもしれない。年度末のアンケートで「何をしたらよいかわからなかった」という意見をよく見る。特に新型コロナウイルス感染症の影響で集まることもできないので、そのような声が多いと思う。
- ・ 学ぶためのきっかけづくりの情報があるとよいと思う。
- ・ まちの中央に住んでいる人や車の免許をもっている人はよいが、バスが必要な人は簡単に移動できない。そのような方が一番困っているのので、そのような人を助けるような制度が必要だと思う。
- ・ アパートが多く、だれが住んでいるのかわからない。高齢者も多いので、民生委員はご存知かもしれないが、周囲の人は知らない場合が多いと思う。
- ・ 孤独死など独居の人の問題、人と人とのつながりに関しては、小さなつながりに参加することで解決するので、そのような制度を活用できるように整備するとよいと思う。

②地域の防災活動における取組や配慮について

- ・ 地域の防災活動や地域活動の生活様式や価値観が大きく変化していく中で、弱者救済、人と人とのつながりをつくっていきたいが、特に高齢者やひとり暮らしの方が災害に遭ったとき、だれがどうするのかという連携を地域でとれるようにしていく必要があると思う。

3 女性活躍について

①本市における女性活躍推進での課題や取組について

- ・ 自治会の選考委員をしたときに、役員のなり手がなく苦勞したことがある。なぜ女性が参加しないのか疑問だった。「奥さんにやってもらえばよい」という意見をしたが、一切取り上げていただけなかった。自治会には「女性が役をやる」という意識がないことを初めて知った。
- ・ 定年後、丹波市に戻ってきたが、働いていたときには男女共同参画のことを全く理解していなかった。周知は重要だと思う。
- ・ 市民プラザは入りにくい雰囲気があり、進んで入ろうとは思えず、何か用事があるので仕方なく入るという場所に思える。それを変えるためにはどのようにしたらよいか課題だと思う。
- ・ 市民意識調査の結果を見ても、前回調査とくらべて大幅に改善しているわけではなく、「わからない」という回答は増えている。賛成なのか反対なのかさえもわからないということだと思う。調査結果を読み取ることが難しいが、市民の意識改革が重要で、シビアに進めていかなければいけないと思う。
- ・ 私の中学生の孫の世代では、共働きが普通で、母親が職を持たず家庭にいることを驚かれる。イクメンという言葉も一般的になったし、育児休業制度等も充実してきているが取得率に課題はある。
- ・ 年代によって育った家庭の環境は違うと思う。現在、地域で活動されている方は 70 歳代の方が多く、男性が家事をする家庭で育っていない方が多いと思う。一番理解しにくい世代だと思う。
- ・ 専業主婦として暮らしてきた人は「食べさせてもらってきた」「養ってもらってきた」と考えている場合があり、働いている人よりも立場が低いという意識を感じる人が多い。

- ・地域で男女共同参画を進める上では、男性の意識も変えなければいけないと言われている。いろいろな考え方の人がいるが、男女共同参画を進めたら自分は損をすると考えている人もいる。家事をしなければいけなくなると考えている人もいるようである。
- ・夫婦のうち、男性のほうが長生きした場合、家事はすべて自分でしなければいけなくなる。料理のコツだけでも覚えておいたほうがよいと思う。
- ・テレビ等で男性の家事参画が取り上げられる機会は増えたが、市民がより身近に感じることができるような周知の方法がとれるとよいと思う。
- ・「SDGs」という言葉も、テレビ等で取り上げられるようになってきた。私たちもその流れに乗ることができたと感じる。自治会長に集まっていたき、役員への女性登用の話をしても受け入れてくれない雰囲気はなく、共感していただけていると感じる。
だから一足飛びに女性の登用が進むわけではなく難しい部分もあるのだが、私たちの主張を理解していただき、当然のことだと思っていただけていると感じる。自然にそのような考え方が出てきて、会議にも参加いただき、意見を出していただいている。
- ・講演会を実施すると、参加率が高い。
- ・先日の「ウィズ・ユー柏原」の研修会で、ある自治会長が丹波市に女性登用の指針を出すよう意見を出されたが、丹波市として強制的に女性の登用率を上げるということも難しいと感じた。ゆるやかに、各自治会でも女性参加を少しでも促すような取組をしてほしいと伝えられたらよいと思う。市民活動課を通じて働きかけていただけるとよい。
- ・市から女性登用の指針や方針が示されれば、各自治会も進めやすいと思う。自治会長に男女共同参画の意識があっても、なかなか独自の基準を設けて取り組むことは難しいと思う。方向付けをするということである。
- ・地域の方たちの意識を変えていくことが大切だと思う。地域活動は「男の人にしてもらっておけば楽でよい」「主人がいるので出てもらえばよい」というような意識がまだ強い。
- ・難しい課題だと思うが、クォーター制等を含めた環境や制度を変えていく部分だけでなく、女性自身の意識を変えていく部分も重要だと感じる。私自身も「自治会の役員をしてほしい」と言われれば戸惑う。今まで経験したことがないので慣れておらず、言葉もわからないので不安だと思うが、「役が人をつくっていく」という面もあると思う。やっていくうちにわかってくることもあるので、意識が変わることを待っているのではなく、挑戦していく必要があると思う。制度を整えていきながら、それに乗る形で意識も変えていけるとよいと思う。
- ・「女性だから参加しなくてもよい」という固定的な性別役割分担意識が根底にあるので、周知啓発をして改善することが必要だと思う。家庭内での男女共同参画とも並行して進めていく必要があると考える。
- ・意識啓発するには、上に立って教える態度ではなく、井戸端会議的な雰囲気の中で思いを伝えることが必要だと思う。違う視点の意見をいただける場合もある。
- ・女性が参加したことで面倒だとか、話が長くなったとか考えずに、違う視点から見られるようになったと建設的に考えられるとよいと思う。
- ・改革を進める上で、女性が家事を担うことが多いので、会議の時間を変更し参加しやすくすることも必要だと思う。
- ・意識の変化に関しては、何らかのアクションを起こして変えていくことが必要で、自然に変わっていくことはないと思う。
- ・啓発の1つで何でもよいので、地元団体と市が一緒に取り組んでいけるとよいと思う。

- ・男女共同参画週間はあるが、男女共同参画の日というものはないので、制定してもよいと思う。女性デイ、いい夫婦の日等はあるので、同じように決めるということで、公募してもよいと思う。
- ・個人的には、男性が家事に協力しなくても構わないと思うが、それを「当たり前」と思うのではなく、「家事をしてくれてありがとう」という気持ちをもつことが大切だと思う。
- ・単に、男性が家事をすることが男女共同参画ではないので、そのときにできる者がすればよいと思う。家事することが嫌でなければすればよいが、他の人にその価値観を押し付けてはいけない。それぞれの価値観を尊重していくことが一番大事だと思う。
- ・男女共同参画の活動をしなくても、若い人が増えれば考え方は変わるという意見もある。

4 市の施策について

①第4次男女共同参画計画について

- ・計画の中の関連場所に「SDGs」のマークをつけるだけでも違うと思う。兵庫県の計画はそのようになっている。
- ・計画づくりでは目標がはっきりしないとうまく進まないと思う。数値目標を設定していただいているが、だれが到達するように進めるのかという具体策がないと感じる。この部分は、どこの課が主に取り組むのか、住民がすべきことは何か、事業所がすべきことは何かという具体策を伴うことが必要だと思う。長い間、数値目標を掲げただけの状態が続いているように感じているので、何とか打開できるとよいと思う。

②男女共同参画を推進する上での要望について

- ・令和4年度に看板啓発事業ということで、九州でされたという男女共同参画の都市宣言を丹波市で実施できたらよいと思う。丹波市からPRをしていただけるとありがたい。
- ・市をあげてどれほど取り組めるのかが大事だと思う。市の他の部署、例えば福祉であれば福祉なりの男女共同参画の取組ができると思う。それを進めて、もう少し盛り上げることができると、より方向性が見えてくる部分があると思う。
- ・極端な言い方をすると、もう少し上の組織として推進室のようなものをつくり、全庁的に広げてほしいと思う。ひとつの係ではなく、より上の組織で進めるということである。他市でも推進室を設けているところがある。それが難しいのであれば、市民活動課と連携していただけるとよいと思う。
- ・組織が縦割りで、横との連携を取ることが難しい。
- ・市からゴミ袋の話もでていますが、「SDGs」の取組の1つという捉え方ができると、「SDGs」の周知度を上げることにもつながると思う。それが、さらにジェンダー平等など他の「SDGs」の項目にも触れる機会を生むと思う。市からそのような指針を投げかけていただけると、私どもも動きやすいと思う。
- ・本日のヒアリングのような機会があれば、意見を伝えることができるが、わざわざ出向いてまで意見を伝えることはしないと思う。共に取り組める事業等があれば有効だと思う。
- ・条例があるが、PRの柱となるものがほしいと思う。スローガンのようなものがあれば周知しやすいと思う。対外的にも丹波市の取組を紹介することができると思う。

5 その他

- ・まず意識をもつということだと思う。自治会同士の情報交換等をして意識を広めていくことも必要だと思う。
- ・意識の問題なので、難しいと感じる。昔からのしきたりや考え方の違い等の地域差もあると思う。



[吉見地区男女共同参画推進連絡会]

1 団体について

①設立の経緯、活動状況、役員登用、活動を進める上での課題、今後の取組について

- ・ 今日参加している3名は梶原自治会の役員で、男女共同参画の経験がある者が出席している。
- ・ 2月に、推進連絡会の歴代経験者の女性の方に話を聞く会を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で来年度に延期になった。
- ・ 20数年前から、梶原自治会では8名の公民館委員のうち、4名は女性と決まっている。女性の視点を取り入れた公民館活動を進めていくという考えからである。
- ・ 吉見地区自治振興会には6つの自治会があるが、それぞれの村の執行部の中に女性がいらない。女性の視点を取り入れるためにも女性を入れるべきだということで、各自治会の副会長を必ず女性にするという制度を10年前に取り入れた。
- ・ 月に1回、自治振興会の理事会があり、各自治会から会長、男女1名ずつの副会長の計3名の方が集まり協議している。
- ・ 吉見地区の自治振興会では、この2年間は、新型コロナウイルス感染症の影響で活動ができていない。吉見小学校の卒業式と入学式にコサージュを贈呈するというので、2月に2回ほど、男女共同参画推進連絡会の方が集まり作成作業をする予定である。他の自治会でも男女共同参画の取組を実施している。
- ・ 梶原自治会では、地内にある姫塚という古墳にちなんで「姫塚アイちゃんクラブ」という名称の男女共同参画を進める会がある。
- ・ 梶原自治会の公民館は20数年前に建てられた建物なので、トイレが男女共同だった。それを見直す必要があるということで、200万円近くかけて女性トイレを新設した。女性や障がいのある方も訪れやすい環境をつくった。
- ・ 自治振興会での地域貢献活動や啓発活動ということで、吉見地区運動会で「男女共同参画推進連絡会」の演技実施している。住民の意識が変われば地域も変わり、風通しのよい地域につながることを呼びかけている。ポケットティッシュ等の啓発グッズを配っている。
- ・ 男女共同参画を推進し、誰もが安心して暮らせる地域づくりにするための活動をしてきた私たちが、支援を必要とする社会的弱者に配慮した活動を切り口として、新たな活動に取り組んでいる。行政の介護支援を受けられない高齢者を支援するボランティア組織を立ち上げる準備をしている。
- ・ 丹波市が合併し、新しい取り組みとして男女共同参画社会推進の取組が提案され、各自治会に男女共同参画推進員を選出することとなった。吉見地区では、以前から男女共同参画を推進する任意団体「男女が共に輝く里づくりの会」が活動を続けており、各自治会の推進員で連絡会を結成し活動することになった。平成21年度から、自治振興会の規約を改正し、女性が振興会の理事会に出席して女性の意見を吉見地区に反映させる体制づくりに取り組んだ。
- ・ 6自治会のうち、2自治会で女性の副自治会長が選出され、2名の理事が誕生した。各自治会とも規制改正により、役員選出の際、女性を登用することが明記された。そして、3年がかりで6自治会すべてに女性役員が選出され、理事として活動することとなった。24年度から4年間は女性の自治会長も選出され、推進会として啓発活動に努めてきた。
- ・ 毎年講演会を実施していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、令和2年度以降は実施できていない。

2 地域づくりについて

①地域づくり活動における課題や組織運営への参画促進について

- ・ 公民館委員をした方は、運動会等のいろいろな行事に関わった経験がある。今までに、すでに女性がやってきたことを続けていくことは、後に続く人も気持ちが高まって続けていけるのだと思う。男性の役員も女性が役員に入るという状況を今では普通に受け入れてくれているので、女性役員も意見が出しやすいのだと思う。
- ・ 若い内に自治会の会議に出る経験も大切だと思う。初めて会に参加するとなると心理的にも負担が大きい。
- ・ 若いときに村で活動してつながりができていると、地域内で大人の仲のよい姿を子どもたちが見て育つ。運動会は 50 年間も続いており、準備など大変だが、参加することで子ども同士もつながりができる。そのようなことが地域づくりであり、つながりは大事にしていかなければいけないと思う。
- ・ 芸能大会も催しの準備は大変だったが有意義だった。横のつながりを保つためには必要かもしれない。取り組み始めると楽しいと感じる。

②地域の防災活動における取組や配慮について

- ・ 自治会の代表者の方に、防災研修会を実施し、各自治会に持ち帰っていただき、実践していただいている。地域の実態を把握して、自治会内の避難行動要支援者（高齢者・病人・肢体の不自由な方・目の不自由な方・妊産婦・外国人の方等）のいる家庭を地図上で確認し、その具体的な支援方法について、自治会役員・消防団・民生児童委員で情報共有した。男女共同参画の推進で、女性の意見を取り入れた、誰もが住みやすい地域づくりに取り組んできたことにより、社会的弱者に視点を置いた防災を考えられる地域になりつつある。
- ・ 防災の男女共同参画に関するDVDを見て気づいたことがある。現在地域の自主防災組織では役員で分担が決まっているが、救護班や炊き出し班は女性ばかりになっている。男性の力が必要な場面もあると思うので、救護班や炊き出し班にも男性を配置したほうがよいと感じた。来年度は工夫できるとよいと思う。

③各自治会の取り組み（梶原自治会）

- ・ 女性トイレの新設や、女性組長の登用等が挙げられる。
- ・ 防災訓練の際には、女性も地域の安全を守るために消火栓を使った初期消火の仕方を訓練していくことを継続している。

3 女性活躍について

①本市における女性活躍推進での課題や取組について

- ・ 現在、どの自治会も会長 1 名、副会長 2 名（男女各 1 名）となっている。各組に関しては、女性組長が選出された自治会もある。自治会活動への女性の関わりをつくるために、各公民館活動に女性を委員として選出し、意見を増やすことを大切にしたい。今後、組長にも女性の登用を進めていきたい。
- ・ 男女共同参画社会づくりの会「姫塚アイちゃん」は平成 21 年に立ち上がり、当時は女性の参加が少なく、女性が意思決定に関われなかったことが改善された。立ち上げ当初は、いろいろな団体の代表者がメンバーになり、梶原地区でどのような活動をしたらよいかということで、素案づくりから取り組んだ。その後の 10 数年の活動で、話したことのない方とも意見交換することで付き合い

- の幅が広がり、絆ができてきたと思う。男性から「姫塚アイちゃんの会はどのような活動をしているのか」という声もあったようなので、団体としてPRをする必要も感じている。
- ・ 2月に予定していた会議では、女性役員の経験者の話を聞きたいということで依頼していた。最初に副会長をされた女性は「当時は大変なことがたくさんあったので、そのような話もしたい」ということだった。男性の方にも話を聞いていただけるとよかったと思う。来年度に期待している。
 - ・ 会議や役職就任時には、女性は経験がないのでとても不安だということである。それは男性でも同じだと思うが、特に女性はそのような経験をする機会が少ないということは事実だと思う。経験のある方からアドバイスをいただきながら進めることができれば、会議や企画のやり方を理解して、役員として育っていくことができると思う。そのようにして得た意識を次の人に伝えることができ、広がりができていると思う。
 - ・ 会議に出席しなくても不都合はないが、参加して話を聞けば、「やらなければいけない」という使命感が生まれると思う。ただ、それは続けていかなければ意味がないと思う。2年でおしまいではなく、長期的に続けていければ、広がりのある地域になれると思う。今後は、そのつなぎ方も課題になると思う。
 - ・ 公民館委員の半数は女性にすると制度化した。若いときに公民館委員を経験すると、他のこともよくわかるようになる。以前は女性が主体になり納涼大会等を企画していた。
 - ・ 組長にも女性を登用するということで、その仕事をマニュアル化しようという意見が出て、実行した。マニュアルがあれば誰でも心配なく取り組める。その中で、例えば草刈りが女性には難しいということであれば、そこは男性が代わればよい。柔軟に取り組んでいけばよいと思う。
 - ・ 現在、アンケートを実施している。公民館委員のように制度化して男女比を半々にする等、各組みの実情に合わせて、どのようにしたらよいか意見を集約している。規約には男女の区別については特に触れられていない。今回は女性が1人ということだが、今後は高齢化が進む中で、女性にも参加していただきたいと思う。男女共同参画の精神で、変えていけるものは変えていくことが大事だと思う。
 - ・ 「女性が」ということよりも、自治会の運営、活動自体に誰もが携われるようにすることが重要だと思う。男性でも役をしたくない方がいる中で「男性がやらなければいけない」ということでは、だんだんと厳しくなると思う。マニュアル化して「だれがやってもできる」とすることで、女性に限らず、誰でも取り組めるようにできると思う。これが最終的な目標だと思う。
 - ・ 「姫塚アイちゃん」の会では、女性も本音で話ができる環境をつくることで、地域も変わっていき、よい地域づくりができると思う。それを基本にしてきたが、大切なことだと思う。女性だけのものではなく、これからは男性も関わっていけるような運営の仕方ができるとよいと思う。
 - ・ 公民館に女性トイレをつくったことで、女性だけでなく男性も使いやすくなっている。「女性のために」ということだったが、結局「みんなにとって」使いやすい、ということになった。
 - ・ 「何のためにするのか」ということは重要だと思う。「住みよい地域にするため、地域の発展に貢献する」ということが目標だと思う。
 - ・ 一般的に、女性は公民館委員等の役を断られる場合が多いと聞くが、参加してよかったと感じている。自治会に何らかの形で関わっていなければ、いきなり大役は大変だと思う。公民館委員等を経験すると自治会のことに関わり続けることができると思う。
 - ・ 男女関係なく、家庭の中でも、意見を聞き、一旦聞き入れる態度は必要で、それによって、互いが気持ちよく暮らすことができると思う。

4 市の施策について

①男女共同参画を推進する上での要望について

- ・市への要望だが、男女共同参画のチラシに載っている講座で参加したいと思うものがあるが遠くて参加しにくい方も多いと思う。

村の活動として、男女共同参画の講演を企画したいと思うが、なかなか講師が見つからない。丹波市から講師を出前してくれる仕組みを整えていただけるとありがたいと思う。市で講師の一覧表を作成し、自治会や自治協議会に必要な方を派遣していただくということである。せっかく講座が開かれても、一部の関心のある人だけが参加するのではなく、より多くの市民に参加していただき、意識改革に活用できるとよいと思う。身近な講座の開催を進めることができるとよいと思う。

5 その他

- ・アンケートを実施したときに若い世代からのご意見があった。「地域の活動が多過ぎ、週末の時間を取られる」「週末は家庭でのんびりしたい」ということである。「行事をしなければ資金もそれほど必要ないので、行事を廃止して自治会費も安くした方がよい」という極端な意見もあった。社会での働き方が変わってきていると感じる。家庭も大切にしつつ、地域との関わりも増やそうとすると難しいかもしれない。家庭と仕事に余裕がないと、地域のことには目が向けられないと思う。
- ・以前は、子育ても母親中心だったが、今は夫婦で子育てをしていると感じる。そのような考え方の違いがあるので、地域のことにしても私たちと同じようにはできないと思う。若い方のご意見を聞き、自治会についての意識を高めていくことができるとよいと思う。
- ・力仕事等は性差があるので分業するとよいという意見があったが、それも細分化に当たるのかもしれない。全員の組長がやらなくても、やれる人がするということである。

